

女性の生涯を通じた健康のために プレコンセプションケアを学ぶ

講師：種部 恭子 さん

産婦人科医 女性クリニック We! TOYAMA代表、富山県議会議員
内閣府第5次男女共同参画基本計画策定専門調査会委員



開催概要

日時：2021年1月31日
 場所：オンライン（Zoom）
 参加人数：71人
 担当：国際・開発委員会

産婦人科医療の現場では、女性の健康にはストレス、暴力、虐待、DV等、医療だけでは解決できない社会的な背景が大きく関係すると認識されている。女性は早い時期から自らの健康を意識して人生のライフデザインを考える必要があり、女性の健康政策もより一層推進されねばならないと講演と対談を通して講師は強調した。

女性の活躍推進が盛んに言われているが、女性は仕事のキャリアと出産・子育てがトレードオフになるという現実があり、人生の重要なライフイベントと仕事の多忙な時期が30代で重なり、先に生むとマミートラックに入り、キャリアを優先すると子どもができにくくなるという理不尽さの中で、近年女性の未婚率が上昇している。

自分の主体的な選択ができない（一方を選ぶと、他方をあきらめなければならない）現状を社会全体として変える必要がある。また、女性のライフステージの中で起こりうる様々な健康課題（病気）は、若いうちから健康に対する意識やケアを欠いていることから生じている。そうした課題を認識してプレコンセプションケアを広めていく必要性が実証的に説明された。

対談の中では、若い女性の望まない妊娠の背景にある性教育の欠如、暴力、虐待、貧困等に対して、社会が適切な教育や福祉を提供していない問題が挙げられ、負の連鎖を次世代に残さないためにも現実に即した支援の必要性が語られた。こうした課題を解決するためには、女性の健康を大きな枠組みをもった政策として推進し、有効に機能させるために国と地方のレベルでさらに多くの女性が政治分野へ進出し、その声を広げていかなければならないと述べた。

最後に、医師と女性議員の視点で取り組んだHPVワクチンについての啓発、県議会議員の出産・育児に関する休業規定の整備、県議会での女性差別撤廃条約可決の経緯についても紹介し、参加者から好評を得た。